



## 変わるというこゝろ

松 村 康 平

### 変わることできたら

私たちが、思うままに変わることができたら、どんなによいでしょう。

「もしも、わたしが、鳥であつたなら」という歌も、変わりたい私たちの気持の、あらわれではないでしょうか。

体のよわい子どもが、力の強い人になつて、大手をふつて歩く姿を、眼に浮べ、多くの子どもたちが、お菓子の国で「さあ好きなだけ、食べていいのですよ」という声を、あたかも耳にきくようにして、どこから食べようかと、思い悩みながらも、楽しそうにしている。これがこうじると、白日夢にひたつて、ぼんやりしているような子どもに、なつてしまいませんが。

満たされぬ気持を、満たそうとする動きは、私たちの心の自然の姿です。そして、満たされぬものが、満たされれば、私たちの気持は変わるでしょう。私たちの振舞いかたも、変わるで

しよう。ながらく、心に求めていた大切なことが、実現したのだつたら、私たちの人がらずら、変わるかも知れません。

### 變えることができたら

ところで、幼児の教育にたづさわる人たちにとつては、なにが関心事なのでしょう。自分自身のことはおいても、あの子この子のことが、大きな関心事のかも知れません。あの子の困つた性質を、なんとか変えることはできないだろうか、いつも気にかけて、思い悩んでいるのかも知れません。この場合に、その子の性質が、望み通りに変わつたら、どうでしょう。

教育にあたる人の気持も、きつと、大きく変わることでしよう。それは、子どもと自分とが、ほとんど一つなので、子どもが変われれば、その人自身も、一しよに変わつたと、感じるからでしょう。感じるだけでなく、その人自身の振舞いかたも、それからは変わつてくるでしょう。

子どもと自分たちの間に、若し「みぞ」があつたら、こうは

いきません。

### 變わることが變えること

大切なことは、子どもと自分の間に、へだてるものがなく、二つが一つといえるほど、きん密に、結ばれていることです。

この關係が、たもたれていれば、子どもの變化が、ただ私たちを變えるだけでなく、私たちの變化もまた、子どもをかえることに、なるでしょう。若し、そうであるなら、氣になる子どもの性質を變えようとする私たちが、子どもを變えようとして注ぐ努力を、自分に向けて、自分をかえることにより、子どもをも、自然に、かえることができるでしょう。むしろ、このほうが、幼児相手の教育では、本すじのように思われます。けれど、ここで、もう一つ、子どもたちと、私たち大人との中間にある「物」を變化させて、子どもたちを變えうる道のあることを、忘れないようにしましょう。

このようにして、私たちと子どもとの、人間關係の仕方を変えて、子どもたちを變えることも、子どもたちと「物」との關係を變えて、子どもたちを變えることも、また、子どもたち同志の關係を變えて、變えることもできますが。

それでは、どのように、どう變えたら、どう變わるか。これが、私たちには、知りたくなるでしょう。

### 變わるものと變わらぬもの

もとより、どんなものでも、無制限に變えることが、できる

わけではありません。それには、變え得る限界がありますし、私たちが教育にあたる場合には、なにか、教育の理想といった變わらぬものをもつて、それが子どもたちの身につくようにと望んでいます。ですから、私たちは、變わらぬものが、子どもたちに、變わらぬものとして受け入れられる努力も、しているのです。

こうなると、私たちの知りたいこともまた、ふえてきますがここでは「變わるもの」を中心に、考えてみましょう。

## 二

嫌いから好きへ

むづかしい理論はぬきにして、嫌いなものが好きになつた例を、述べましょう。

偏食がなおつた経験です。女のひとですが、

私は、小さいときから、野菜がきらいだったので、母が心をこめて料理したのも、手をつけず、自分の好きなお魚とかお肉の料理ばかりを食べるので、母が困つたような顔をしているのを、よくみました。

ところが、一年に入學して間もない或る日のことでした。

「今日は、大好きなものを、作つてあげる」

と、いわれたので、大喜びで、自分の好きなものをあげ、夕食をたのしみにまつていました。そして、夕食のときには、お茶の間にはいり、自分の席について、上機嫌で、運ばれてくる

お料理をながめていますと、私の大好きなオムレットと、シチューのそばに、大嫌いなゴマあえとお香物が、ついています。それをみたあなたに、私はブツとふくれて、そッぽをむきますと父母が、かわるがわるに、のぞきこみ、

「さあ、早く食べなさい」「今日は、大好きなものがあるぞ」というのです。けれど、私は、母の顔をみて、

「私の嫌いなものもあるから」

と、なかなかはしをつけませんでした。すると、父が、

「そんなら、今日は、食べるのはよしなさい。そのかわり、明日になつても、ごはんを食べさせないから」

と、いわれ、しぶしぶはしをとりますと、今度は、

「ゴマあえを食べてしまうまでは、オムレットもシチューも、食べてはいけない」

と、いわれたので、思い切つて、それを、口の中にいれ、お茶をのんでまた食べて、自分のお皿のものを、とうとうみんな食べてしまいました。すると、父母がニコニコして、

「これからは、きらいなものを一つずつ出すかわりに、好きなものを毎日つくつてあげる」

と、いいました。私は、その日のオムレットとシチューを、いつもよりおいしく食べおりました。

けれど、その次の日になると、昨日のいやな思いをまた今日もくりかえすのかという心配が、半分と、今日は何が出るかしらという期待が、半分とで、夕食をむかえ、おぜんをみますとピフテキのわきに、大根のいたのが、のつています。私は、あ

あまたかと、思いましたが、ピフテキが食べたいので、大根を小さくちぎつて、口にいれました。すると、思ったほどまずくないのです。あのいやなにがみもなく、とろりと舌にとけていくので、こわごわ二三口食べますと、なんだかとても自分がえらくなつたような気がして、父母の喜ぶ顔もみられるものですから、「特急でみな食べてしまいました。そして、その後は私の天下一大好きなピフテキを、大いばりて食べました。」

このようにして、それから一週間ばかりは、大好きなお料理にひかれて、大嫌いな野菜を、次々と食べましたが、きらいだったものも、二度目に出されたときは、平気で、半分ほど、食べられるようになりました。あとの半分は、えらいえらいとほめられるので、得意になつて、食べたものです。

それからというものは、どうやらこうやら、なんでも食べられるようになり、次の学年始めのころは、もう、きらいなものがないといつて、お友だちにいばれるほどに、なりました。そして、偏食がなおると同時に、胃腸の具合も、よくなり、下痢や便秘も、いつのまにか、なおつてしまいました。

嫌いが好き・好きが嫌いになるのは

このひとの偏食は、こうしてなりましたが、皆さんのなかにも、このような経験をしたひとがいるでしょう。

幼稚園にきたがらなかつた子が、喜んでくるようになったり「え」のきらいだつた子が、好きになるのは、どうしてかと思ひ、その「きつかけ」を発見して、それからの保育に役立てて

いるひとも、多いことと思います。

このひとの偏食は、好きなものと一しよに、きらいなものが与えられ、好きなものの「力」のほうがきらいなものの「力」より、強く効くように、仕組まれることによつて、なおつたのでしたが、この人がきらいになつた原因をさがしてみましたところ、そのお父さんが美食家で、偏食をし、体が弱かつたのだと、わかりました。もとより、それだけが、その子の偏食の原因ではなく、体質の問題や、そのほかにもなにかあつたかと、思いますが、大人になると、嗜好がはつきりしてくるので、子どもに食べてもらいたいものとの「ずれ」がでてきて、一家だんらんの食事にも、いろいろと、悩みが生じます。

## 二

變えるためには

嫌いなものを好きにするには、別の仕方もあります。

次に述べるものは、子ども同志の働きによつて、つまり、集団の力をいかすことによつて、偏食をなおした例ですが、

本を読んでいたら、こういうことが、書いてありました。それは、

ご飯を、いつも、積極的に食べたがらない子どもたちを集め三人一組にして、その中にもう一人、よく食べる子をいれて、食事をはじめました。そうしたら、この三人の子どもは、相変わらず、ぐずぐずしていましたが、よく食べる子が、食べおわつ

て、食べたがらない子の前にあるお皿のままで、食べかけると、あわてて、手でかくし、自分のものを、いそいで食べはじめたというのです。そして、それから、だんだんに、ご飯を進んで食べるようになったとのことでした。

このように、嫌いなものが好きになつたり、好きなものが嫌いになる例から、私たちが、子どもの性質なり、私たち自身の気持を、変えようとして変えることのできるような「きまり」（法則）を見いだせたら、どんなにか、世の中の、役に立つことでしょうか。このような例は、私たちが、少し気をつけさえすれば、ほうぼうにあるものです。

これは、ねこの嫌いだつた人の話ですが、高等学校のとき、下宿をした家に、ねこがいました。ところが、或る日、下宿の、まだ五つか六つの子どもと、遊んでいたとき、その子の、ぼんとほおつたねこが、その人のひざの上に、のりまいた。その人は、はつとしましたが、子どもの前で、みつともないという気持や、下宿先のねこだというようなことから、じつところえて静かにひざからおろしました。そのことがあつてからは、ねこが、前ほどいやではなくなつたということです。

私は、「變わること」「變えること」について、さらに今後も研究を進めて、皆さんのお役に立てたいと思つています。